

はじめに

尼崎の海は工業地帯で汚れているイメージとは違い近年は水質も改善され、資源豊富な海に変わってきました。尼崎に来る釣り人と協力して釣れた魚の余剰分を活用する「フィッシュシェアリング」を行い、子ども食堂や食育団体へ向けての食材として活用や、魚のアラをいろいろな形に変えて活動を行っています。この活動を幅広い年齢層の方に向けて観光と学習に応用し、尼崎の臨海部の再生と活性に取り組んでいます。

「兵庫県尼崎市南部地域の再生と活性へ」

尼崎市の臨海部は、工業地帯のイメージで「汚い・臭い」というネガティブな印象を持つ方もおられますが、行政や企業、民間団体等各所が環境改善へ取り組んだ結果、資源豊かで綺麗な海に変化しました。現在はレジャー目的として多くの方から重宝され、ブリやサワラ、クロダイ、スズキ等、約85種類の魚が回遊する活きた海となっています。

弊社は尼崎市南部の再生と活性のため、豊かになった尼崎の海と、臨海部にある既存の施設をリンクさせ、楽しみ学べる「環境と学習の町」にすることで、再生と活性を行うことを目標に活動をスタートしました。

「ネガティブイメージ払拭へ3つの取り組み」

まずは尼崎の海や魚のネガティブなイメージの払拭。その主となるのが釣り人に協力を頂き、釣れ過ぎた魚を活用する「フィッシュシェアリング活動」です。2018年から始めた活動で、シェアして頂いた魚を3つの取り組みに利用しています。

1つ目は食材としての活用。調理・加工したもの

まちむら発見②

尼崎市南部再生と活性に挑戦

兵庫県尼崎市 株式会社尼漁開発



運河クルーズツアー風景と、釣り人から魚を頂いた時「フィッシュシェアリング」の写真です

を冷凍保存し、子ども食堂や食育団体などへ年間4500〜8500人前を提供しています。

2つ目は調理が終わった魚をB型支援施設と連携し、尼崎産魚100%無添加ペットフードの製造を行っています。保護猫(犬)施設では餌としての活用とB型支援施設が販売・管理することで、安定した障がい者雇用の促進に繋がっています。

3つ目は骨や内臓・アラを乾燥し、粉末にしたものを肥料として提供。肥料は兵庫県阪神農林振興事務所の認定を受けており安全に使用することが可能で、里山作りや農家・環境保全団体等で利用頂いております。海の資源から新しい循環を創り出す活動です。この3つの活動で、尼崎の海と魚のPRとイメージアップ活

動を行いました。

【整った体験学習の環境】

PRと並行し、地産地消の学習にも取り組みました。尼崎臨海部では自然共生サイトに認定された「尼崎の森」、日本に唯一のパナマ運河方式である防災の尼崎閘門「尼ロック」、水質改善の循環施設「キャナルベール」があり、各場所で行われる様々な学習が行われています。2022・23年の2年間で各々が行っていた学習と弊社の取り組みを繋げ、食育・環境・循環・防災の学習を一貫して行える体験学習の環境が整いました。海の資源を様々な形に変え活用する新たな環境学習は、園児から社会人まで幅広い年齢層が参加できる学習となっています。2023年度は年間500名の子どもたちが体験し、「尼崎市教育旅行プログラム」として認定。今後、さらに多くの子どもたちが体験できる環境が整いました。

【尼崎の魚と手軽に触れ合える場】

次に観光についての取り組みです。弊社は40年以上、釣り人をお送りする渡船業、尼崎市魚つり公園の指定管理業務を共同体で運営し、臨海部のレジャー利用者促進に取り組んでいます。釣り公園敷地内では、釣れた魚をすぐに食べることが出来るバーベキュー場や、尼崎の海で生息する魚と触れ合える子ども用の釣堀も営業。海と釣り、魚と食をリンクさせ、地産地消を体験できる観光エリアとなっています。最近では、釣り人以外にも地域の学校や団体等からも楽しさを兼ねた食育としても利用して頂いています。

【尼崎運河クルーズで尼ロック体験】



調理後の食べない部分を肥料に加工する学習風景です



釣り人から頂いた魚を調理・加工し、子ども食堂さんがその魚で子ども達へのお弁当を作っている風景です

さらに去年から臨海部に親しんで頂くため、(一社)あまがさき観光局と協働し、尼崎港を周遊する「尼崎運河クルーズ」をスタート。クルーズでは映画にもなった尼崎市の治水を守る尼ロックの通航体験とロケ地巡り、活きた運河の周遊、2025年の大阪・関西万博の会場を海から見学して頂いています。新しくスタートした運河クルーズと釣り、バーベキューを組み合わせ、ひとつのエリアで手軽に手ぶらで楽しめる「尼崎港運河探検クルーズツアー」としてパッケージ化。尼崎市臨海部を存分に楽しんで頂けるプランとして提供を開始しました。このプランは2025年大阪・関西万博に向けた「兵庫フィールドパビリオン プレミア・プログラム」に認定され、2023年から利用者が急増。尼崎市の新たな観光ツールとしても他府県からの注目度も上がっています。2024年からは(株)日本旅行と提携し、旅行プランとして国内観光客やインバウンド向けの利用促進を促しています。

【既存施設を利用した観光と学習】

「尼崎港運河探検クルーズツアー」は、兵庫県と尼崎市からも大きな支援を頂いています。官民が協力し、既存施設を最大限活用すれば、尼崎市の南部地域は観光にも学習にも使えることが実証できました。

環境を活用した学習と、海を楽しむレジャーと観光。その両面でスタートラインに立つことができました。尼崎市南部の再生と活性という目標に向け、今の活動をさらに良いプログラムに進化させるよう今後の取り組みにつなげていきます。

(株式会社尼漁開発 代表取締役 宮本悦男)